



最上エコポリスの実現
=豊かな自然 輝くもがみ=

小国川だより

最上小国川治水対策について、お知らせします。

小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第15号

平成21年11月25日発行

山形県 最上総合支庁
建設部 河川砂防課

最上小国川流域の環境を守る活動をされている地元の方々をご紹介します



「野頭親桜会」が育てた桜

春雪の権現山と満開の桜（最上町野頭）

平成16年4月25日；加藤淳一氏撮影

最上小国川流域で、河川アダプト団体として河川の美化活動をされている「野頭親桜会」をご紹介します。「野頭親桜会」は最上白川の河川環境を守る活動をしています。代表の加藤正明さんに詳しい状況をお聞きしました。

代表の加藤さん



「野頭親桜会」の皆さん



「野頭親桜会(のがしら しんろうかい)」

以前、最上白川の法田橋付近は、ゴミ捨て場にされ、もの凄いゴミの山でした。平成4年に、地区の有志が集まり、何とかしようという話が持ち上がり、ゴミを撤去し、桜を植えることになりました。建設会社の方からも協力してもらってゴミを片づけました。

現在では50本以上の桜が育ち、春には見事な桜が見られるようになり、ゴミも捨てられなくなりました。会員は36名になり、地区の若い人たちも大勢参加し、年代を超えた交流が盛んになっています。

主な活動としては、年4回、草刈り、ゴミ拾い、植樹などをおこなっています。6月は、地区の子どもたちも活動に参加しています。昨年と今年、河川アシスト企業として活動している新庄砕石工業所さんと葛麓運輸建設さんに協力してもらい、大きな石などを撤去して、整地し、さらにきれいになりました。会の活動の結果、春には花見、6月に運動会、秋には芋煮会を、毎年河原でおこなうようになりました。

以前の川は、子どもたちを遊ばせるには、邪魔なゴミや木が多かったんですが、今はきれいになったので、親も安心して子どもたちの川遊びを見ていられます。子どもたちには川遊びを楽しんでもらいたいと思います。

上流の地区に、先人が植えた桜があります。あと1kmくらい植えると、上流とつながります。これからも桜を植え続けて、いつか、桜回廊を作ってみんなに楽しんでもらいたいですね。

【河川アシスト企業とは】

河川アダプト団体を支援する目的で活動する、企業を単位とする団体です。

アダプト団体の活動だけでは達成しにくい支障木の除去など、重機などの使用に特化した活動を行います。

植樹状況



水理模型実験の全体模型実験では、何が分かったのか

ダム設計にあたっては、形や寸法が決まると、計画どおりに安全に放流できることを確認するため、水理模型実験をおこないます。

前号では、河床の高さにある常用洪水吐の流せる量を確認するための抽出模型実験をご覧いただきました。今回は、全体模型実験について、ご説明します。

【全体模型実験】

今回は、各寸法が割りきれぬ数字になるように1/31.25の全体模型をつくりました。

堤体の模型と、ダム下流側150メートル区間と上流側200メートル区間の現地地形も模型にし、模型延長は10数メートルになりました。

全体模型実験では、主に次のことを調べます。

【非常用洪水吐(ひじょうようこうずいばき)】

ダムでは、想定した流量を大きく超えるような時でも、堤体の安全を確保できるようにするため、堤体の上部に非常用洪水吐を設置します。この非常用洪水吐が計画通りに流せるかを調べます。

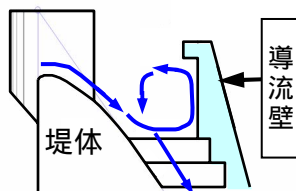
【導流壁(どうりゅうへき)】

非常用洪水吐から水が流れ落ちる時、水が周辺に飛び散らないで下流側に導くための導流壁を設置しますが、この壁の適切な高さを実験により求めます。

【減勢工(げんせいこう)】

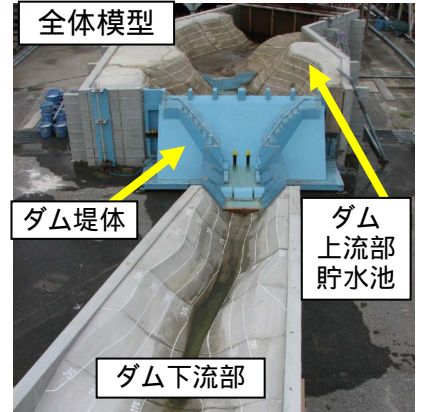
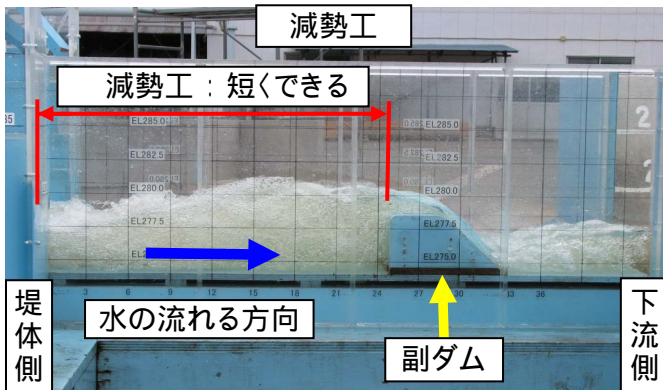
洪水吐を超えた水は、勢いが強いので、そのままでは下流の河道が掘れたりします。このため、堤体の下流側には、水の勢いを押さえるための副ダムを設けた減勢工を設置します。この減勢工が確実に水の勢いを押さえられるかどうかを確認します。

導流壁断面図

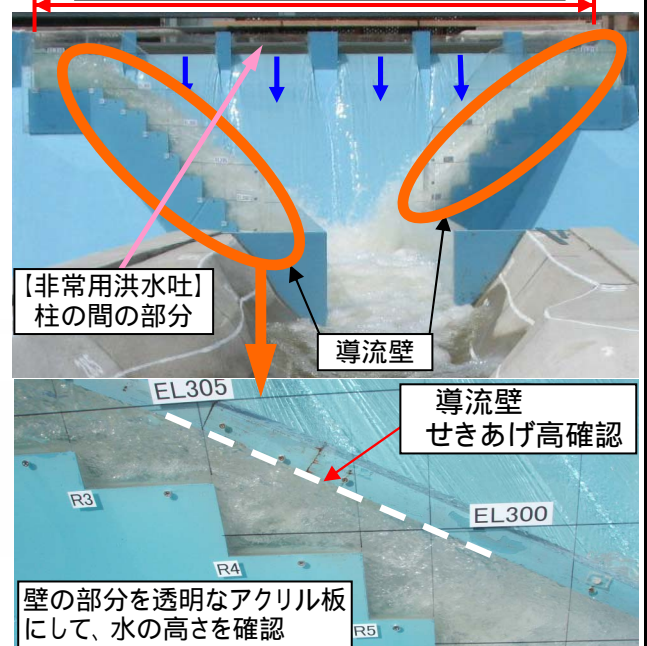


堤体

導流壁



非常用洪水吐：長くする必要あり



【実験結果】

非常用洪水吐：実験により、計画した流量を流すためには延長を2メートル長く設計する必要があることがわかりました。

導流壁：水のせきあげの高さが確認でき、適切な壁の高さを設定することができました。

減勢工：底や副ダムの高さを変えて、いくつかのパターンで実験したところ、減勢工の長さを数メートル程度短くすることができ、より経済的に造れることがわかりました。

吉村知事が、直接国土交通省にダム事業の推進を訴えました。

吉村知事は、10月28日、国土交通省の馬淵副大臣を訪ね、県内のダム事業の着実な推進を直接訴えました。

知事は、これまで「最上小国川ダムの平成21年度事業については、計画どおり事業を進めたい。平成22年度については、国の方針を注視し、引き続き、国にダムの必要性を説明し、訴えてまいります。」とコメントしています。



発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課
最上小国川ダム建設室 佐藤・高橋
〒996-0002

山形県新庄市金沢字大道上 2034

お問合せ先 電話 0233-29-1407

Email - 【前画面を参考にしてください。】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。
アドレスは下記のとおりです。

http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html